



1963年に内村病院（精神科、心療内科、婦人科）を開業した内村さん。病院長を42年間務め、現在も診察を続けています

春の叙勲 市から2人が受章 内村成良さん、朝廣勝海さん

春の叙勲受章者が発表され、市から内村成良さん（87 = 元内村病院長）が瑞宝小綬章（保健衛生功労）、朝廣勝海さん（70 = 元農林水産技官）が瑞宝単光章（農林水産業務功労）を受章しました。内村さんは「今後も患者さんと向き合い、続けられる限りは診療をしていきたい」と喜びを語りました。

暮らしに香りと彩りを 薬草センターでハーブの祭典

4月27日、薬草・地域作物センターでハーブ祭 in のじり 15th が開催されました。市内外から約700人が訪れ、寄せ植え教室やクイズラリー、〇×クイズなどに参加。郡司定雄所長は、「イベントを通して、薬草・ハーブの利用方法などを知ってもらえればうれしい」と話していました。



宮崎県薬剤師会員に説明を受けながらクイズを解く参加者。ゴールではバジルやカモミールなどのハーブの苗が配布されました



馬頭観世音祭は、農閑期から農繁期に移る5月8日に、家畜の生産安定と慰霊、五穀豊穡と家内安全などを祈願して行われます

畜産の発展を祈願 西諸畜連で馬頭観世音祭開催

5月8日、小林市馬頭観世音祭が西諸畜連内の保食神社で行われました。畜産関係者ら約160人が出席。神事後、市畜産振興会連合会の森岡和憲理事長が「馬頭観世音祭に大勢の方に来ていただき感謝しています。畜産は厳しい現状が続いているが、精進していきたい」とあいさつしました。

絶景眺めながらウォーキング すきむらんどで滝まつり開催

5月3日、すきむらんどで滝まつりが開催されました。春の山菜や特産品を販売する恒例の山びこ市などに加え、今回はウォーキング大会や昨年から行われている魚のつかみどりを実施。ステージでは太鼓やジャズの演奏などが行われ、新緑の風が吹く須木に多くの家族連れが訪れました。



ウォーキング大会は、すきむらんど〜かるかや間の約5*のコース。約60人が参加し、ゴールでは花の苗が配られました



贈呈式に参加した関係者ら。同会はホンダの県内協力会社を中心とする団体で、各地で清掃活動など社会貢献活動を行っています

ホンダフェニックス会が 三松小に刈り払い機を寄贈

4月16日、ホンダフェニックス会（野村栄会長）が、三松小へ刈り払い機1台を寄贈しました。校長室で贈呈式が行われ、野村会長が「活動を通し、地域とのつながりを深めていきたい」とあいさつ。溝邊由美子校長は「子どもたちのために大切に使用していただきたい」とお礼を述べました。



作業は、西諸県農林振興局、NOSA I、市やJAなどの職員も協力して実施。同大会は、19年ぶり宮崎県で開催されます

全国茶品評会で上位目指し 官民協働で茶摘み作業

宮崎市で8月に開催される全国茶品評会に向け、4月23日から4月26日まで市内5件で茶摘みが行われました。西諸県地区茶業振興協議会の川原光雄会長は「今年は良い茶葉ができています。若手が中心となって盛り上がっているのも、ぜひとも上位入賞してほしい」と話していました。

島津藩の調練の歴史を後世に 史談会が調練場に記念碑建立

4月14日、薩摩藩主島津斉彬が軍事演習を行ったとされる場所（北西方）に、「調練場記念碑」が小林史談会（齊藤勉会長）により建立されました。同日、除幕式が行われ、住民や関係者ら約40人が出席。除幕後、齊藤会長は「小林の歴史的事実を後世に伝えていきたい」とあいさつしました。



碑を前にあいさつする齊藤会長。この碑にある「調練場」という地名は、薩摩藩の練兵砲術が行われたことに由来しています

25万本の花々に3万5千人 生駒高原でポピーまつり

花の駅生駒高原で4月19日から5月18日、ポピーまつりが開催されました。広さ約16*の園内にはオレンジ、白や黄色のアイランドポピー、カリフォルニアポピーなど約25万本が満開。期間中には、園内に屋台や物産展などが並び、歌や大道芸などのステージイベントも行われました。



満開を迎えたじゅうたんのようなポピー畑を歩く来場者。連休中は、花の苗の無料配布、ガーデニング教室なども開催されました

市役所と商議所に「チョウザメのぼり」

5月1日、市役所と商工会議所に「チョウザメのぼり」が初登場しました。市と商工会議所のチョウザメ・キャビア課が、雌雄2匹ずつ計4匹を共同で制作。揚げる作業には中央保育所の園児ら58人も参加し、「元気に泳いでー」などと歓声を上げていました。



ゲートボールの全国大会で8位入賞

5月7日、全国選抜ゲートボール大会に出場する市選抜チームが市長を訪問しました。選手を代表して小峰實義さんが「全国から強豪が集まるが、自分の力を発揮したい」と抱負を述べました。5月17日、18日に大会が開催され、見事8位に入賞しました。



教育研究センター研究員19人に委嘱

5月15日、市教育研究センター研究員の委嘱状交付式があり、市内小・中学校の教員19人に委嘱状を交付しました。研究員を代表して、西小林小の今藤誠一主任研究員が「将来、小林、日本を支える子どもの育成を目指し研究に取り組む」と宣誓しました。



障がいへの理解と商品販売促進を

5月16日、市内の障がい福祉サービス事業所で作られた製品を販売する第2回「福祉しょっぷ」が、市役所本庁玄関前で行われました。ふれあいの里の支援員中野利彦さんは「この活動を通して、障がいへの理解や支援の輪が広がっていけば」と話していました。



計画策定や駅周辺整備に提言 中心市街地活性化協議会設立

5月14日、中心市街地活性化計画策定や小林駅周辺整備計画に対する提言などを行う小林市中心市街地活性化協議会の設立総会が、商工会議所で行われました。委員ら約30人が出席。会長に選任された熊ノ迫文夫さんは、「市民のためのまちづくりを進めていきたい」とあいさつしました。



協議会は市内の商業、観光、交通や農業関係者など22人の委員で構成。中心市街地の都市機能の増進、経済活力の向上を目指します

長年収集した切手、古書寄贈 新田八代子さんに感謝状贈呈

5月17日、新田八代子さんが市教育委員会に日本切手、外国切手など約5万枚と古書約100冊を寄贈し、感謝状が贈呈されました。文化会館で行われた贈呈式で「このような時間をいただきありがとうございます」とあいさつ。切手は中央公民館の図書室、古書は市立図書館に保管しています。



元小学校教員の八代子さん。退職後は小林地区更生保護司会女性会長や選挙管理委員を歴任するなど、市政に尽力されてきました



4日間で6500人が来場。会場では同センターが製造する堆肥「うぐいす有機」で育てた野菜や花などの販売も行われました

アグリサービスのつるばら 満開の80種類140本公開

5月10日、11日、17日、18日の4日間のじりアグリサービスでつるばらまつりが開催されました。まつりでは、景観向上と堆肥の効果検証を目的に栽培されているツルバラなどを公開。椎原廣美専務取締役所長は「例年以上に花の付き、香り、色合いがよいです」と話していました。



自分で収穫したトマトでピザを作る生徒ら。今年は約1000人の修学旅行生を受け入れる予定で、昨年より2.5倍に増えています

修学旅行で農作業や料理体験 横浜の高校生23人農家民泊

5月13日、14日に、北きりしま田舎物語が横浜デザイン学院高等課程の生徒ら23人を農家民泊で受け入れました。高校生の受け入れは今年が初めて。加藤シゲ子さん宅に滞在した小林慧さんは「山や空がきれい。都会では見れない虫やカエルがいてとても楽しい」と話していました。

「幻想的なホテル楽しんで」 まつり前に出の山公園を清掃

5月9日、「出の山ホテル恋まつり」を前に清掃活動が行われました。作業前に観光協会の吉留高志会長が「こうした活動は、ホテル保護を市民に啓発する意味でも意義深い」とあいさつ。観光協会や地元業者ら100人が遊歩道などの草刈りやゴミ拾いをし、観覧客を迎え入れる準備を行いました。



池周辺の草刈りを行う清掃参加者。ホテルまつりは昨年4年ぶりに復活し、今年は3000匹の飛翔が見込まれています

全国大会を2年連続制覇 秀峰新体操部に県学生栄誉賞

5月12日、県学生栄誉賞の授与式が県庁知事室であり、1団体2個人が表彰されました。市内からは、全国新体操選抜大会で優勝した小林秀峰高校男子新体操部が受賞。同部岩下涼志主将は受賞者を代表し「全国大会2連覇を達成し、元気と感動を届けたい」と今後の意気込みを語りました。



授与式にて。河野知事は「周囲への感謝を忘れず、賞を今後に生かしてほしい」と謝辞を贈りました(写真は県秘書広報課提供)